

たかぎ  
高木遺跡

所在地 扶桑町大字高木  
(北緯35度21分35秒 東経136度54分29秒)  
調査理由 県道草井・羽黒線道路改築  
調査期間 平成16年4月～平成16年5月  
調査面積 850㎡  
担当者 石黒立人・加藤博紀



調査地点(1/2.5万「犬山」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は県道草井羽黒線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成16年4月から5月にかけて実施した。調査面積は850㎡である。

立地と環境 扶桑町は木曽川の左岸に位置し、犬山市と江南市に挟まれる。高木遺跡は標高30m前後の犬山扇状地上に立地し、北西および南東には旧木曽川の流路が谷地形を残している。

調査の概要 今回の調査区は平成15年度調査区の南東に位置する。上面の調査結果は前回同様であり、遺構検出面は幅の狭い攪乱溝によって縦横に裁断され、部分的に方形土坑が遺存していた程度であった。遺物の出土もあまり多くは無かった。

下面では幅約14m、深さ2mほどの大溝(SD01)を検出した。遺物の出土量は上面同様けっして多くはなかったが、7世紀後半代の須恵器が出土した。堆積層は、下部に砂層があることから水流の存在がうかがえたけれども、底面は土壌化しており、当初は乾燥していたと判断される。

大溝の方向は調査区内ではほぼ南北であり、扇状地を斜に横断している。水流の存在は木曽川旧流路に接続していることを示すと考えるが、当初乾燥していたことは、水路ではなく微高地を横断する「切り通し」的なものでなかったかと想像させる。(石黒立人)



SD01全景 南東から